様式２　【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開（ 可・否 ）

区分	1.森づくり　2.森の恵み　3.森と技 4.森と暮らし　5.森の文化財　6.森の風景	
分野（ふりがな）	（分野） 生　業	（ふりがな） なりわい
地域独特の呼び方	―	―
タイトル	炭焼き　④	
伝承地域	飯舘村大倉（村一円）	
由来	（いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで（いつまで）伝えられてきたか） 木炭には炭質により「白炭」と「黒炭」がある。「白炭」は 1,300 度の高温で焼き真っ赤なった炭を取り出し「す灰」をかけて火を消し、「黒炭」は 400～700 度で焼き火が消えてから取り出す。大倉地区では炭質の固い白炭が主であった。	
内容	（内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども） 窯の中に炭木を入れることを、「木を立てる」という。窯の奥から戸口まで、直立にびっしりと木を立てなければならない。木が斜めになると、木がたくさん入らないし、風通しも悪いため燃えも悪く炭の質が落ちる。窯が熱い内に早く上手に立てなければ窯が冷えすぎて燃えも悪くなるので、腕の善し悪しはここで見分けられる。立て方が終わると、窯の焚き口から芝木に火をつけて、だんだん強く焚いていく。尻窯から出る煙を見て焚き方を加減するのだが、大いに熟練を要するところである。この煙の色で、窯全体に煙が回ったことを察知し、焚き口を密閉する。さらに、煙の色を見て、必要なだけ尻窯の口を閉める。尻窯の煙の色は、始めはひりひりするような煙であるが、だんだんと、白い煙、白と青が混じったような色、紫色と変わってくる。煙が見えなくなると、窯の中の木は完全に炭化したのである。焼き上がった炭をかきだし棒で戸口からかきだし、「す灰」をかけて火を消す。できた炭は、冷えたところで、「炭すご」に入れる。	
文化財等の指定状況	―	
問い合わせ先	飯舘村教育委員会　電話０２４４－４２－１６１１	

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）		※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。
	性別・年齢	男　・　女　　歳	
	住所・電話	〒　　電話	
	職　　業		
団体	団体名（ふりがな）		
	代表者氏名（ふりがな）		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成　　年　　月　　日	
	問い合わせ先	電話	

【フリーフォーマット】

キーワード

（飯舘村教育委員会）